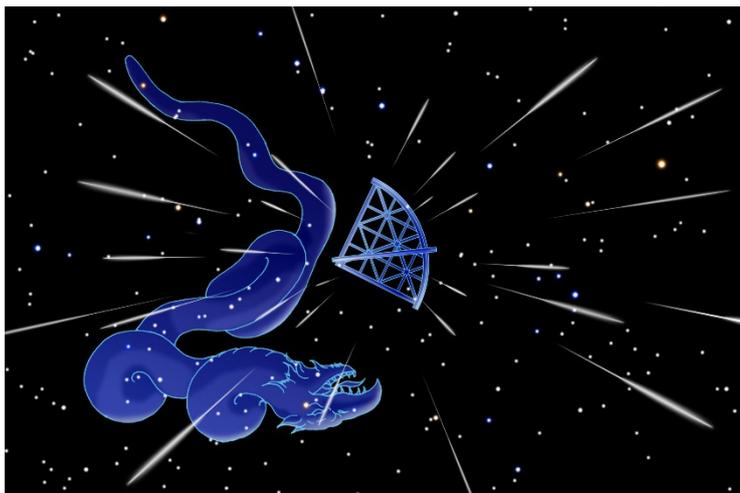




## ざりゅうせいぐん きたい しぶんぎ座流星群に期待

正月の天文イベントと言えは、しぶんぎ座流星群がまず思いつきます。8月のペルセウス座流星群、12月のふたご座流星群とともに三大流星群の一つとされ日本では1月4日の明け方（3日の深夜）に極大を迎えますが、何となく地味な印象は否めません。



しぶんぎ座流星群の放射点は今ではりゅう座にあります。

絵: 高部哲也

出現期間は2週間程度と長いので

すが、ピークはわずか6時間ほどしかないこと、放射点が低いことなどがその理由でしょうか。それでも今年は月齢が5と月の影響が全く無いので多くの流星が見られるのではないかと期待されています。

この流星群は過去に大出現したことがありますが、ここ数十年は1時間当たり50個程度の出現です。ただ、突発的なピークがあることも知られています。ピークにうまく当たると1時間数百個の流星が見られる可能性もあります。

母天体は2003EHという無名の小惑星です。かつては彗星だったと考えられ、軌道上には多くの流星の素となる物質が残っていて、コンスタントに流星を降らせませす。

しぶんぎ座は、りゅう座の脇にある星座ですが、今はありません。流星群の名前としてのみ残っています。放射点が1月4日にもっとも高く上るのは、朝10時頃なので、薄明前の3時—5時半頃が見頃です。この日から仕事が始まる人は、早起きして挑戦してみてください。

2024年12月27日記 (解説員: 田部一志)